

登録コード	A2Y08200	開講年度	2026				
授業科目	食料生産システム学					担当教員	渡邊 修 他
英文授業名	Food Production Systems						竹田 謙一・YE RONGLING・若林 剛志
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・1時限	対象学生	2年生
講義室	農学部 3 0 番講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】	
	2 0 2 5 Aカリ						
	【2025年度以降カリキュラム対象】1.【教養・基礎学力】 豊かな教養と農学分野における基礎学力が身についている。					食料生産に関する国内外での現状や取り組みを理解し、食料生産システムの基礎知識について説明できる。	
	【2025年度以降カリキュラム対象】2.【専門性】 農学分野の専門的な学識と技術が身についている。					持続的で安定した食料生産を進めるための、環境負荷を軽減した生産システムの構築やスマート農業技術などの専門的なアプローチについて論じることができる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生						
(3)全学横断特別教育プログラム	環境マインド実践人材養成コース						
(4)授業の概要	安定した食料生産は我々が生きていく中で必要不可欠であるが、気候変動、食料需要の変化によって、食料生産の形は大きく変化している。持続的で安定した食料生産を進めるには、生産力と自給率の向上、環境負荷を軽減した生産システムの構築、スマート農業技術の導入など多方面からアプローチする必要がある。ここでは食料生産に関する国内外での取り組みを整理しながら、食料生産システムの理解を深めるための基礎知識を習得する。						
(5)授業計画	1. 食料生産システムの基礎と日本の農業（渡邊） 4月9日 2. 農業生産の基盤：食料・農業・農村基本法（若林） 4月16日 3. 世界経済と日本の食料生産システム（若林） 4月23日 4. 日本の主要な生産基盤：水田（叶） 5月7日 5. 多様な作物の生産基盤：畑（叶） 5月14日 6. 変動する生産環境：気候変動（叶） 5月21日 7. 畜産と日本の食料生産システム（竹田） 5月28日 8. 生産環境における有害生物管理1（渡邊） 6月4日 9. 生産環境における有害生物管理2（渡邊） 6月11日 10. スマート農業の要素技術1（渡邊） 6月18日 11. スマート農業の要素技術2（渡邊） 6月25日 12. センシング技術を活用した農地観測（叶） 7月2日 13. スマート農業における家畜管理センシング（竹田） 7月9日 14. アグリビジネスと食料生産システム（若林） 7月16日 15. 食料生産システム学のまとめ（渡邊） 7月23日						
(6)自主学習の指針	講義資料はPDFで配布します。配布資料や参考書等を活用して復習を中心とした自主学習を行い、各小課題を必ず実施してください。また、日々の事前・事後学習を通じて、身近な農業や環境問題に対して日常的に注意を払うように心がけてください。						
(7)成績評価の基準	評定については次の評価基準を基本としています。 秀：授業の達成目標水準から見て卓越している。（90点以上） 優：授業の達成目標水準よりかなり上にある。（80～89点） 良：授業の達成目標水準よりやや上にある。（70～79点） 可：授業の達成目標水準にある。（60～69点） 不可： 授業の達成目標水準にない。（59点以下）						
(8)事前事後学習の内容	適宜連絡します。						
(9)テストやレポートの予定	各回の授業後に、内容の理解確認を目的とした小課題（レポート）を提出する。 小課題は原則として毎回課す（提出方法・締切は授業内で指示）。 期末試験（定期試験）は実施しない。 成績は提出された小課題等を総合して評価する。						
(10)成績評価の方法	成績は、毎回提出する小課題（全15回）の内容により評価する。 各回の小課題を合計して100点満点で採点する（期末試験は実施しない）。						
(11)質問、相談への対応および連絡先	当の各教員が講義時間内に原則として対応します。必要に応じメールでも対応します。担当教員のメールアドレス一覧は、eALPSに掲載します。						
(12)履修上の注意	導入科目・必修となります。						
【教科書】							

【参考書】	作物学（第2版） 根本・平田編 文永堂出版
-------	-----------------------